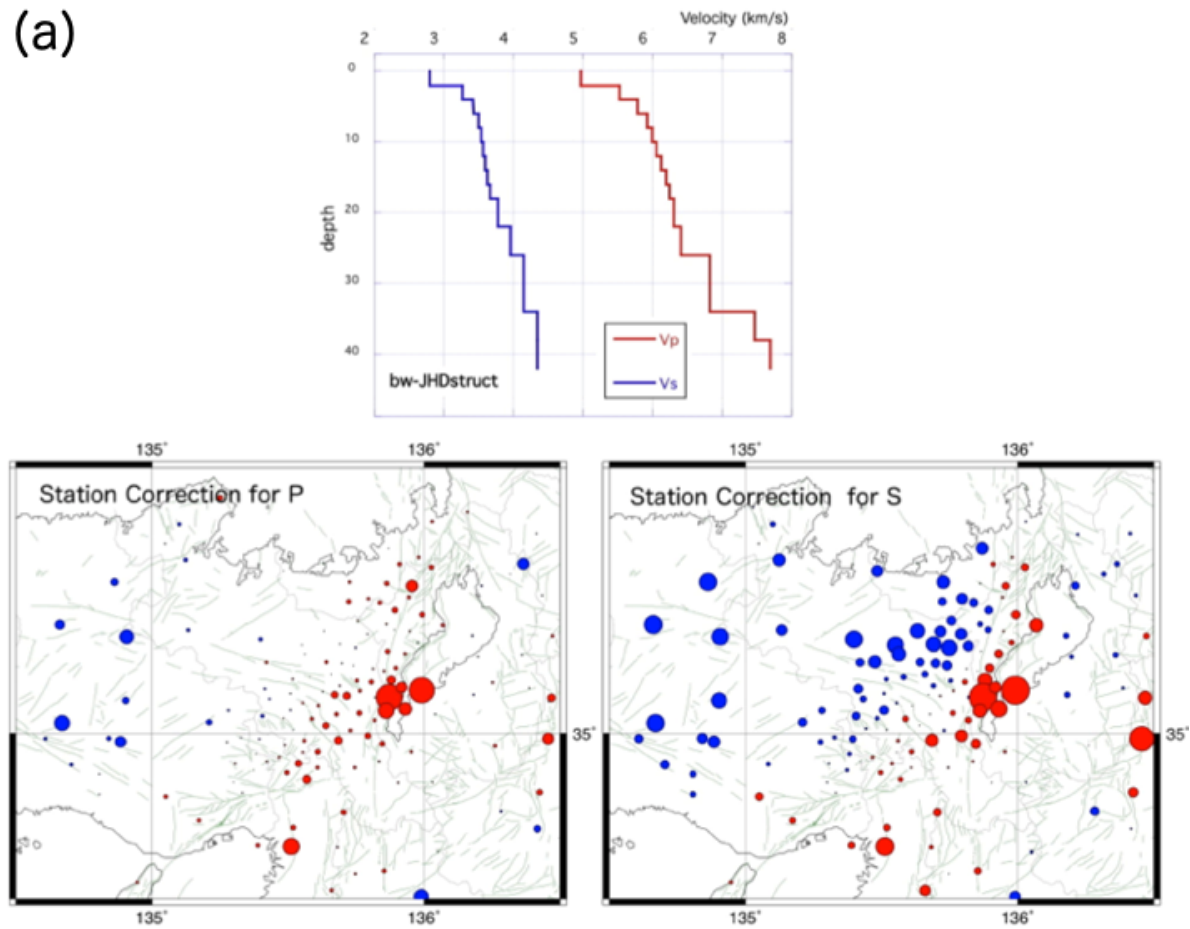


(a)



(b)

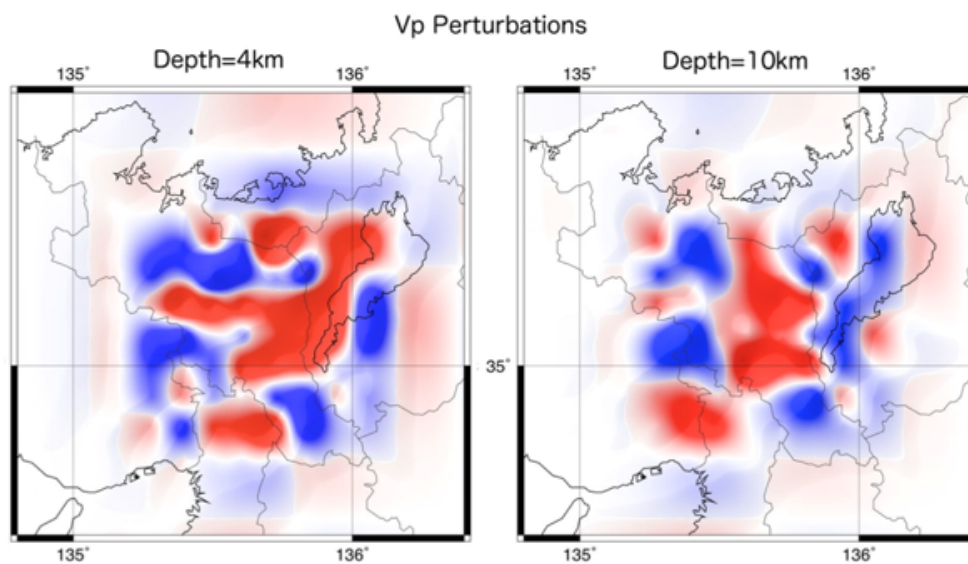


図15. 超周密臨時観測による近畿地方北部の地下構造。(a) 連携震源決定法(JHD)の結果1次元速度構造(上), P波の観測点補正值(左下), S波の観測点補正值(左下)。赤は正の補正值, 青は負の補正值, ○の大きさは絶対値を表す。(b) 予察的なトモグラフィの結果。深さ4 km(左)及び10 km(右)におけるP波速度の偏差をとり, 青は相対的に高速度であること, 赤は低速度であることを示している。(京都大学防災研究所[課題番号: 1811])

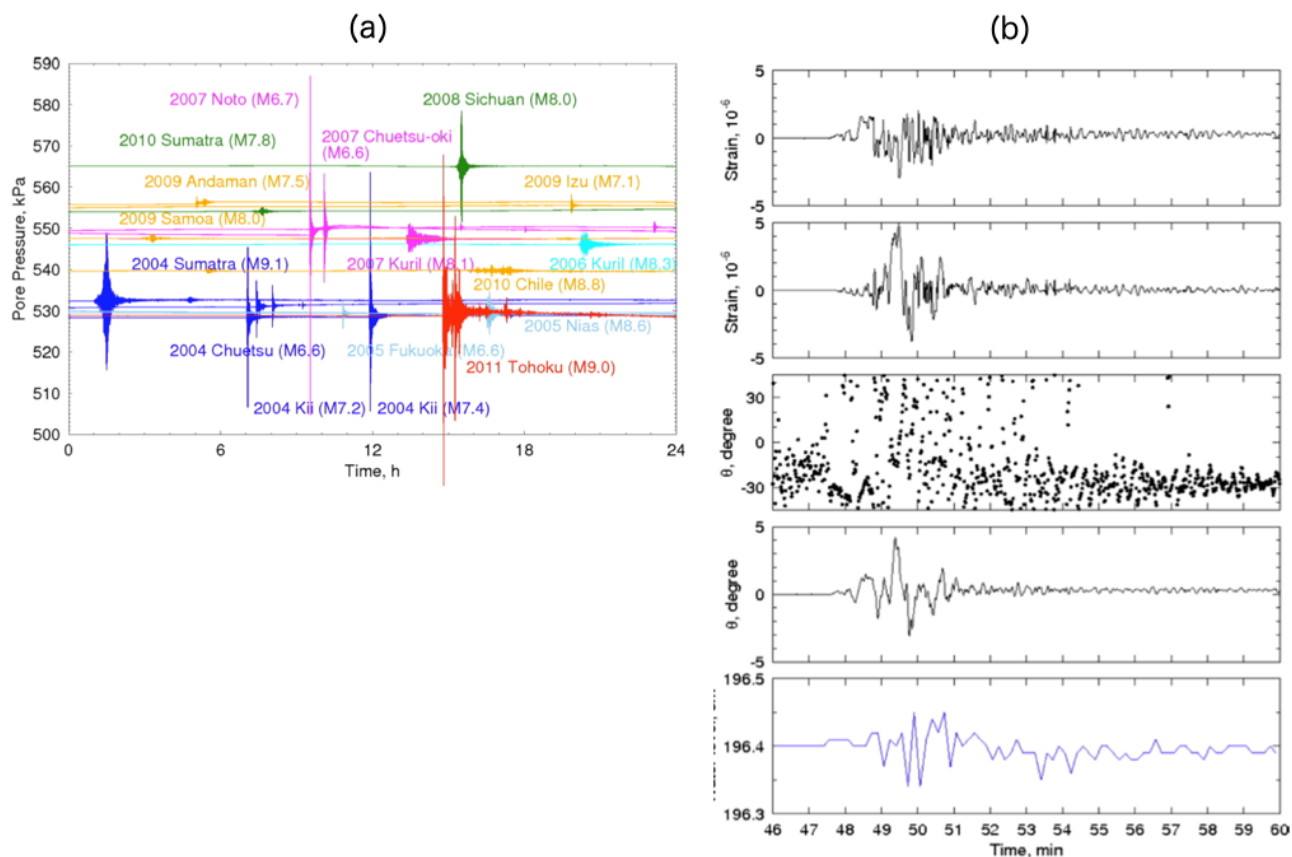


図16. 東北地方太平洋沖地震による動的なひずみの観測。(a) 間隙水圧による地震記録。神岡鉱山で観測された間隙水圧による地震記録。赤が東北地方太平洋沖地震。(b) 東北地方太平洋沖地震の際のボアホールひずみ計記録上から、最大水平主ひずみ、最小水平主ひずみ、主ひずみ方向、垂直ひずみ、近傍の井戸の水位。主ひずみは水平3成分の記録から求めた。水位については、(a)のような地震記録は書かず、被圧していない帯水層の圧力を測定していることに注意。（京都大学防災研究所〔課題番号：1811〕）